

本事例の基礎データ

カテゴリ	情報モラル		
学校種	中学校	事例提供者	東村山市立東村山第四中学校
学年	第1～3学年	教科等	特別活動
単元名	タブレット端末持ち帰り・使い方のルールを決める		
主な ICT 機器	・タブレット端末（キーボード付き Chrome OS 機／一人1台）		
授業の概要	生徒が全員参加してタブレット端末の持ち帰り・使い方のルールを決める		
「情報活用能力 #東京モデル」の位置付け	情報モラル	STEP 4	<ul style="list-style-type: none"> ・情報に関する個人の権利と重要性について理解できる。 ・情報に関する個人の権利と重要性を踏まえ、適切に行動しようとする。

本事例における教育の情報化について

ポイント1	<p>各学級でタブレット端末を使用する際のメリット・デメリットを考える</p> <p>第1時に各学級の生活班でタブレット型端末の持ち帰り方や使い方についてメリットやデメリットを考えることで、生徒一人一人が自分事としてルール作りに参加することを促す。Jamboard で各班の意見をまとめることで、その後のクラス全体での考えの共有を行うことができる。</p>
ポイント2	<p>生徒会でタブレット端末の新ルール原案を提案する活動</p> <p>各学級から出た「学級案」を持ち寄り、タブレット端末の新ルール原案を作成する。全学年参加でそれぞれの立場で主張を行い、議論を重ねる。その際、スプレッドシートを活用することで意見を整理し、提案された考えを生かして合意形成することができる。</p>
ポイント3	<p>全学級が Google Meet に参加し、生徒総会でルールを決定する授業</p> <p>全学級が Meet でオンライン生徒総会に参加する。オンライン生徒総会は、生徒会が作成した原案を提示し、意見がある生徒は各学級で発言する。生徒会及び専門委員長の生徒は別室に集まって質問や意見への対応を協議し、ルールの修正を行っていく。全員参加で決めたルールであることを確認することにより、生徒全員が責任感をもつことができる。</p>

本単元（題材）における指導の流れ

時間	●主な学習活動 ・生徒の活動	○支援・留意点 ☆評価
1 (本時) ・ 2	<ul style="list-style-type: none"> ●各学級でタブレット端末の持ち帰りや使い方のルールについて「学級案」を考える。 ・各班で持ち帰り方や使い方についてのメリットとデメリットを考え、学級全体で共有した後、「学級案」をまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○Jamboard を用意して意見を出させることにより、生徒一人一人の考えを集約し、学校全体での共有を行いやすくする。 ☆学級や学校における人間関係をよりよく形成し、他者と協働して日常生活の向上を図ろうとする。 【主体的に学習に取り組む態度】 ☆学級や学校生活をよりよくするための課題を見いだしている。【思考・判断・表現】 ☆異なる意見から共通点を見だし合意形成に向け取り組んでいる。 【思考・判断・表現】
※	<ul style="list-style-type: none"> ●生徒会で「新ルール原案」を作成する。 ・各学級が作成した「学級案」を基に議論を重ねて原案を作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○各学年の意見をスプレッドシートにまとめることにより、考えの共有、修正、整理等を行いやすくする。
3	<ul style="list-style-type: none"> ●生徒総会で新ルールを決定する。 <p>全学級が Meet でオンライン生徒総会に参加する。オンライン生徒総会は、生徒会が作成した原案を提示し、意見がある生徒は各学級で発言する。生徒会及び専門委員長の生徒は別室に集まって質問や意見への対応を協議し、ルールの修正を行い、ルールを決定する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○Meet に全学級が参加することにより集合せずに生徒総会を開催する。 ○自由に考えを出させることで全員が参加して決めたルールであることを自覚させる。 ☆学級や学校の生活上の諸課題を話し合っ解決することや他者と協働して取り組むことの大切さを理解している。 【知識・技能】

本時の流れ

段階	●主な学習活動・生徒の活動	○支援・留意点 ☆評価
導入	<p>●タブレット端末の持ち帰りや使い方に関するメリットやデメリットを考え、よりよい活用をしていくために適切なルールづくりの準備をする。</p> <p>・タブレット端末の持ち帰りや使い方について、ルールが変更されることを理解し、本時の流れを確認する。</p>	<p>○タブレット端末の持ち帰りや使い方を検討することを伝え、スライドを用いて本時の流れについて確認する。</p>
	<p>タブレット端末の持ち帰りや使い方によってどのようなメリットやデメリットがあるだろう</p>	
展開	<p>●「タブレット端末を自由に使用したり、持ち帰ったりするメリット」について考える。</p> <p>・各班に割り振られた Jamboard で 一人一人メリットに対する考えを付箋で書き込み、その後、班長を中心に班の意見をまとめる。</p> <p>・各班の意見を班長が発表し、学級で共有する。</p> <p>●「タブレット端末を自由に使用したり、持ち帰ったりするデメリット」について考える。※メリットの時と同じ流れで進行する。</p>	<p>○Jamboard を各班分用意する。 全員が考えを出すように促す。</p> <p>○タブレット端末の扱いの習熟が高い生徒に学級の意見を別のボードにまとめておくように依頼する。</p> <p>☆学級や学校における人間関係をよりよく形成し、他者と協働して日常生活の向上を図ろうとする。 【主体的に学習に取り組む態度】</p>
まとめ	<p>●学級としてまとめたメリットとデメリットを振り返り、これらを踏まえて次時に新しいルールの原案を作ることを説明する。</p>	<p>○よりよいルールになるように全員が主体的に参加するように促す。</p>

授業の実践

【ポイント1】各学級でタブレット端末を使用する際のメリット・デメリットを考える

クラス
まとめ
タブレットを自由に使用したり、持ち帰ったりするためのルールを考えよう！

絶対に必要なルール

フィルターをかける

時間制限（22:30以降は帰宅しない）

屋外に持ち出して使用しない

勝手に他の人のアカウントでログインしない

タブレットの破損や盗難に責任を負わない

授業中必要なことには使わない

あったほうがよいルール

授業中にタブレットを起動しない

授業中はタブレットを起動しない

書き留めているときはタブレットを起動しない

学校ではYouTubeを見ない

学校ではYouTubeを見ない

入れるか迷っているルール

マウスの使用許可

マウスの使用許可

マウスの使用許可

マウスの使用許可

マウスの使用許可

マウスの使用許可

マウスの使用許可

マウスの使用許可

班ごとに Jamboard のシートを用意することで全体の場では考えを発表しにくい生徒も考えを発表し、参加することができた。その後、「学級案」作成の際にも考えを整理するのに効果的だった。

【ポイント2】生徒会でタブレット端末の新しいルール原案を提案する活動

No.	絶対に必要なルール	No.	あったほうがよいルール	No.	入れるか迷っているルール
1	アプリを入れない	1	1	1	中央委員会に話し合うこと
2	学校では勝手に動画を撮影しない	2	2	2	①必要、不必要なルールを識別する
3	屋外で使用しない	3	3	3	→考えているものは必ずしも、削除したりする
4	勝手に他の人のアカウントでログインしない	4	4	4	ルールとして必要かどうかを考える
5	授業中、関係のないことには使わない	5	5	5	→各学年の学代、委員長、生徒会に分かれて審議
6	書き留めているときに許可なく使用しない	6	6	6	→それぞれの審議結果のルールを共有し、全校で審議
7	ゲーム禁止	7	7	7	②Meet投票の準備
8	授業中にタブレットの状態を確認する	8	8	8	→生徒会が発表
9	授業中は勝手に使用は禁止	9	9	9	→中央委員会のメンバーは審議で情報
10	カメラは勝手に使用しない	10	10	10	→学代はクラスで参加
11	書きながら使用しない	11	11	11	→審議や意見はその場で決定、中央委員会でも審議、投票
12	人が集まることはしない				
13					
14	自分の（スワード）を教えない				
15					
16	授業中に勝手に見せる				
17	意図的に見せない				
18	授業以外の目的以外では使用しない				

各学年のルール原案をスプレッドシートにまとめることで、考えの修正や加筆などを効率的に行うことができた。また、他学年の考え等を共有する際にも効果的であった。

【ポイント3】全学級が Google Meet に参加し、生徒総会でルールを決定する授業



各学級から自由に意見を発信することができたので、全員が体育館などに集まる生徒総会より考えを活発に発表することができた。生徒会及び専門委員長が協議した後、その場でルールの修正が行われたことで全員がルール決定に参加している自覚をもつことができた。

今後に向けて

- ルールの運用やタブレット端末の使い方についての実態を定期的に把握し、必要があれば同様の形態で修正を行っていききたい。
- 生徒自身がタブレット端末を活用することで教育効果が上がることを実感できるようにしていきたい。